



京セラ株式会社

2025 年 3 月期 第 1 四半期 決算説明会

2024 年 8 月 1 日

イベント概要

[企業名] 京セラ株式会社

[企業 ID] 6971

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2025 年 3 月期 第 1 四半期 決算説明会

[決算期] 2025 年度 第 1 四半期

[日程] 2024 年 8 月 1 日

[時間] 16:15 – 16:51
(合計：36 分、登壇：9 分、質疑応答：27 分)

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 2 名
代表取締役社長 谷本 秀夫 (以下、谷本)
執行役員 経営管理本部長 千田 浩章 (以下、千田)

登壇

司会：皆様、お待たせいたしました。本日はお忙しい中、京セラ株式会社のウェビナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。ただいまより、2025 年 3 月期第 1 四半期決算説明会を開催いたします。

本日使用いたします資料は、当社ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。なお、本日のウェビナーは録画しております。あらかじめご了承ください。

それでは最初に、本日の出席者を紹介いたします。代表取締役社長、谷本秀夫でございます。

谷本：谷本です。よろしくお願いいたします。

司会：執行役員 経営管理本部長、千田浩章でございます。

千田：千田です。よろしくお願いいたします。

司会：それでは、これより説明を開始します。谷本社長、お願いいたします。

谷本：平素は皆様に大変お世話になり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本日は大変お忙しい中、当社決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

それでは、2025 年 3 月期第 1 四半期決算説明会資料に沿ってご説明いたします。

1 2025年3月期 第1四半期 決算概要

2 2025年3月期 業績予想

注：2025年3月期より、「その他の事業」に含まれるエネルギーソリューション事業及び「本社部門損益等」に含まれるエネルギー関連出資に伴う持分法損益等を「ソリューションセグメント」の「その他」として業績管理することとしました。これに伴い、同条件での比較を行うため、2024年3月期の業績についても同様の管理区分にて表示しています。

資料の1ページをご覧ください。本日はこちらに記載の通り、2025年3月期第1四半期決算概要および2025年3月期業績予想の順にご説明いたします。

それでは初めに、2025年3月期第1四半期の決算概要についてご説明いたします。

2025年3月期 第1四半期 実績 (1)



(単位：百万円)

	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	増減金額	増減率
売上高	479,420	498,868	19,448	4.1%
営業利益	25,677 (5.4%)	20,956 (4.2%)	-4,721	-18.4%
税引前利益	50,477 (10.5%)	47,765 (9.6%)	-2,712	-5.4%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	37,392 (7.8%)	36,797 (7.4%)	-595	-1.6%
平均為替 レート	米ドル 137円 ユーロ 149円	156円 168円	注：（ ）内の数字は売上高比率	

円安効果はあったものの、将来的な生産拡大に向けた先行投資により
人件費や減価償却費等の固定費や研究開発費が増加し、増収減益

3 ページをご覧ください。当第 1 四半期の売上高は前期に比べ 4.1%増加の 4,989 億円となりました。営業利益は 18.4%減少の 210 億円。税引前利益は 5.4%減少の 478 億円。親会社の所有者に帰属する四半期利益は 1.6%減少の 368 億円となりました。

円安効果はあったものの、将来的な生産拡大に向けた先行投資により、人件費や減価償却費などの固定費や研究開発費が増加し、増収減益となりました。

(単位：百万円)

	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	増減金額	増減率
設備投資額	29,961 (6.2%)	31,914 (6.4%)	1,953	6.5%
有形固定資産 減価償却費	26,399 (5.5%)	28,844 (5.8%)	2,445	9.3%
研究開発費	24,984 (5.2%)	29,529 (5.9%)	4,545	18.2%

注：（ ）内の数字は売上高比率

通信インフラ機器関連事業等において研究開発費が増加したことに加え、
前期に実施した設備投資の影響により減価償却費が増加

4 ページをご覧ください。設備投資額は 319 億円、減価償却費は 288 億円、研究開発費は 295 億円となりました。通信インフラ機器関連事業などにおいて研究開発費が増加したことに加え、前期に実施した設備投資の影響により、減価償却費が増加いたしました。

2025年3月期 第1四半期 セグメント別売上高



(単位：百万円)

セグメント別 売上高	2024年3月期 第1四半期		2025年3月期 第1四半期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
コアコンポーネント	134,065	28.0%	138,434	27.7%	4,369	3.3%
産業・車載用部品	52,864	11.0%	57,089	11.4%	4,225	8.0%
半導体関連部品	74,307	15.5%	73,597	14.7%	-710	-1.0%
その他	6,894	1.5%	7,748	1.6%	854	12.4%
電子部品	84,565	17.6%	89,712	18.0%	5,147	6.1%
ソリューション	264,757	55.2%	275,718	55.3%	10,961	4.1%
機械工具	80,448	16.8%	85,865	17.2%	5,417	6.7%
ドキュメントソリューション	103,574	21.6%	115,037	23.1%	11,463	11.1%
コミュニケーション	49,954	10.4%	51,318	10.3%	1,364	2.7%
その他	30,781	6.4%	23,498	4.7%	-7,283	-23.7%
その他の事業	5,177	1.1%	4,214	0.8%	-963	-18.6%
調整及び消去	-9,144	-1.9%	-9,210	-1.8%	-66	—
売上高	479,420	100.0%	498,868	100.0%	19,448	4.1%

5 ページをご覧ください。こちらはセグメント別売上高の一覧です。詳細については、のちほどご説明いたします。

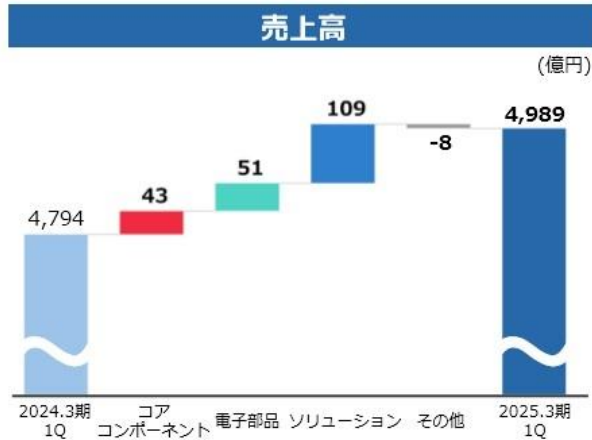
2025年3月期 第1四半期 セグメント別利益



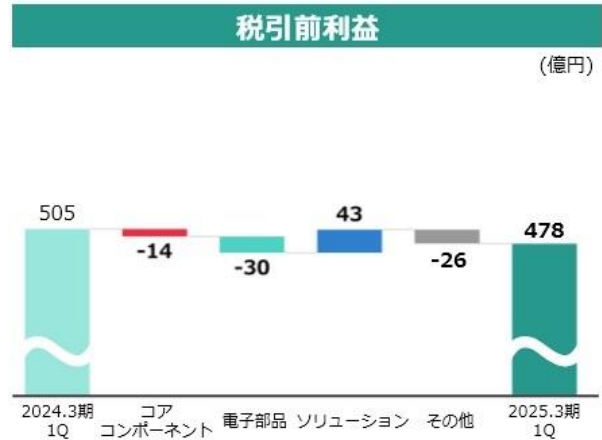
(単位：百万円)

セグメント別 利益	2024年3月期 第1四半期		2025年3月期 第1四半期		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
コアコンポーネント	13,835	10.3%	12,440	9.0%	-1,395	-10.1%
産業・車載用部品	6,218	11.8%	5,756	10.1%	-462	-7.4%
半導体関連部品	7,903	10.6%	6,472	8.8%	-1,431	-18.1%
その他	-286	—	212	2.7%	498	—
電子部品	4,062	4.8%	1,055	1.2%	-3,007	-74.0%
ソリューション	15,730	5.9%	20,047	7.3%	4,317	27.4%
機械工具	5,024	6.2%	6,010	7.0%	986	19.6%
ドキュメントソリューション	9,022	8.7%	11,340	9.9%	2,318	25.7%
コミュニケーション	-543	—	679	1.3%	1,222	—
その他	2,227	7.2%	2,018	8.6%	-209	—
その他の事業	-9,387	—	-11,388	—	-2,001	—
事業利益 計	24,240	5.1%	22,154	4.4%	-2,086	-8.6%
本社部門損益等	26,237	—	25,611	—	-626	-2.4%
税引前利益	50,477	10.5%	47,765	9.6%	-2,712	-5.4%

6 ページをご覧ください。こちらはセグメント別利益の一覧です。



ドキュメントソリューション事業を中心にソリューションが牽引したことに加え、円安の影響を主因にすべてのセグメントにおいて増収



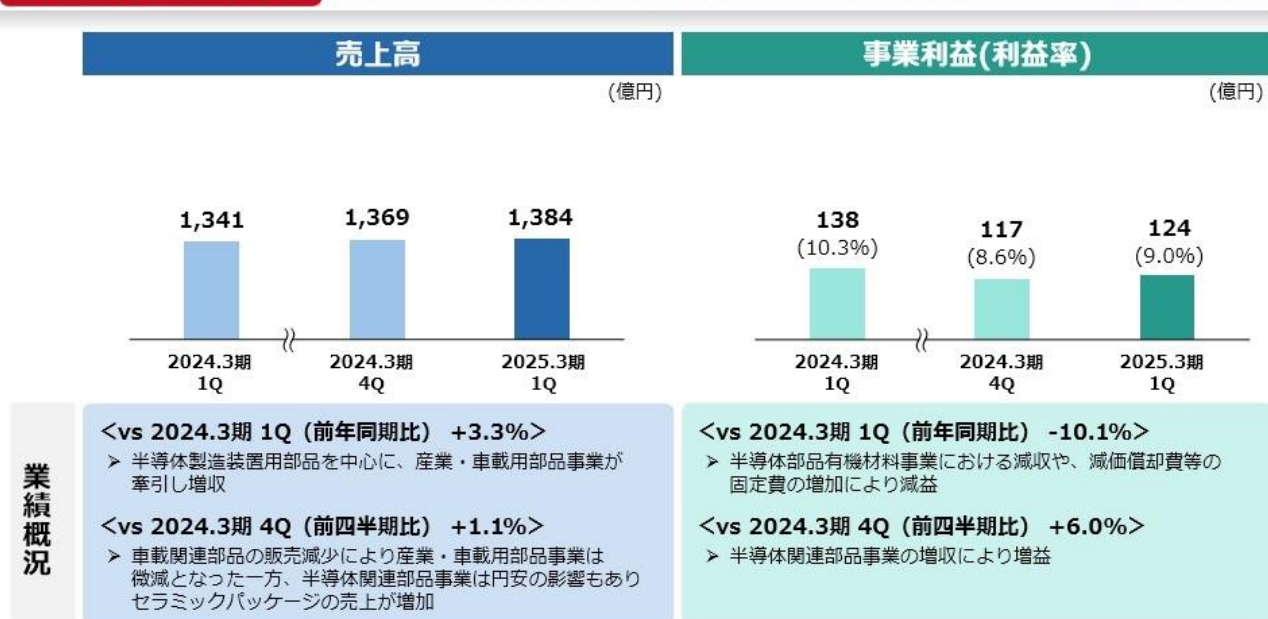
ソリューションは増益となったものの、コアコンポーネント及び電子部品の減益に加え、その他における研究開発費の増加により減益

7 ページをご覧ください。こちらは当第1四半期の実績サマリーを示しています。

スライド左側の売上高をご覧ください。売上高は、ドキュメントソリューション事業を中心にソリューションが牽引したことに加え、円安の影響を主因にすべてのセグメントにおいて増収となりました。

続いて右側の税引前利益をご覧ください。ソリューションは増益となったものの、コアコンポーネントおよび電子部品の減益に加え、その他における研究開発費の増加により減益となりました。

各セグメントの売上高、利益の詳細を次ページ以降でご説明いたします。



注：前期比増減率及び事業利益率は百万円単位で算出

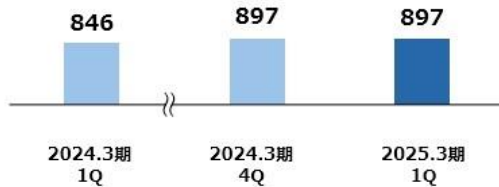
8 ページをご覧ください。まずはコアコンポーネントです。

当第1四半期の売上高は1,384億円となりました。半導体製造装置用部品を中心に産業・車載用部品事業が牽引し、前年同期比較で増収となりました。また、前四半期比較では、車載関連部品の販売減少により産業・車載用部品事業が微減となった一方で、半導体関連部品事業では、円安の影響もあり、セラミックパッケージの売上が増加し増収となりました。

利益は124億円となりました。半導体部品有機材料事業における減収や減価償却費など固定費増加により、前年同期比較で減益となりました。一方、前四半期比較では、半導体関連部品事業の増収により増益となりました。

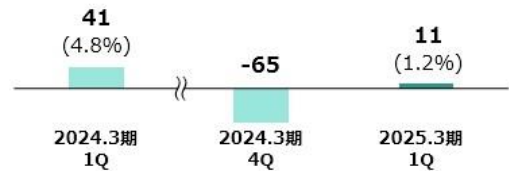
売上高

(億円)



事業利益(利益率)

(億円)



業績概況

<vs 2024.3期 1Q (前年同期比) +6.1%>

- 情報通信及び産業機器市場向けのコンデンサや水晶部品等が円安効果もあり増収

<vs 2024.3期 4Q (前四半期比) +0.1%>

- 情報通信及び産業機器市場向けのコンデンサや水晶部品等の販売増加や円安の効果があつた一方、車載市場向け部品の販売減少により横ばい

<vs 2024.3期 1Q (前年同期比) -74.0%>

- KAVX*グループ 新工場の稼働率低迷に伴う原価率の上昇や人件費等の増加の影響により大幅減益

<vs 2024.3期 4Q (前四半期比) +76億円>

- 前期4Qに計上した一時的な構造改革費用等の影響がなくなったことを主因に大幅増益

* Kyocera AVX Components Corporation

注：前期比増減率及び事業利益率は百万円単位で算出

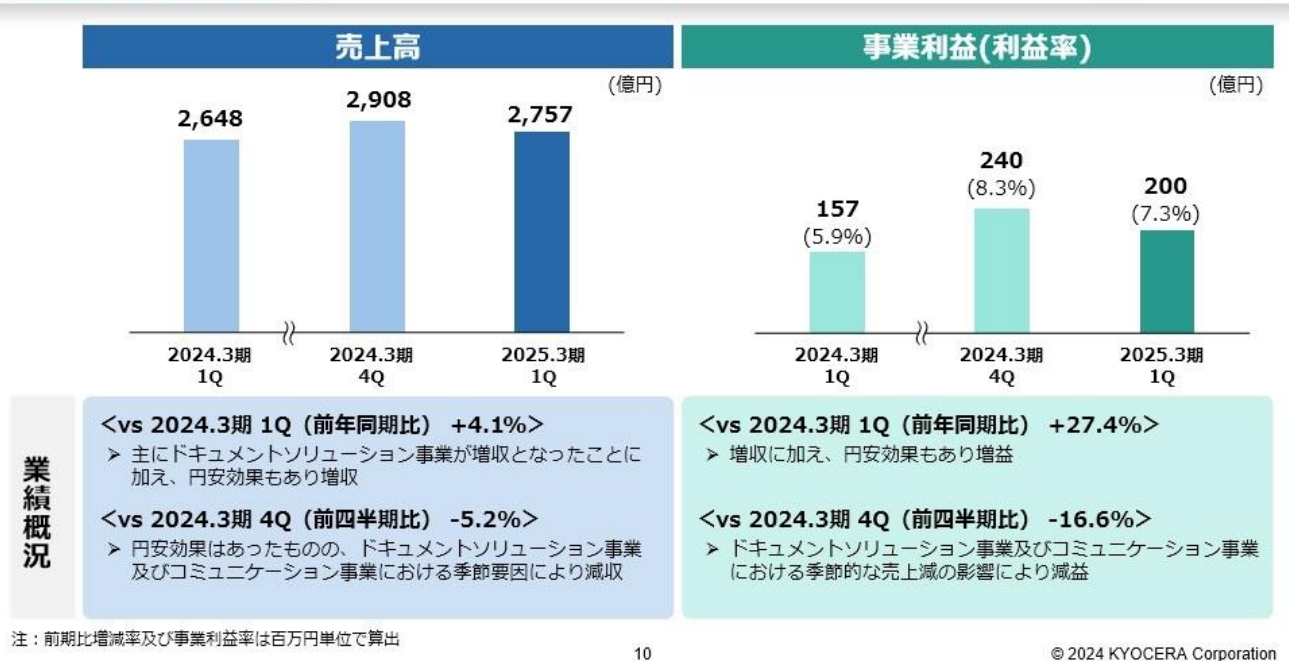
9 ページをご覧ください。続いて電子部品です。

当第1四半期の売上高は897億円となりました。情報通信および産業機器市場向けのコンデンサや水晶部品などが、円安効果もあり増収となったことにより、前年同期比較で増加いたしました。

また、前四半期比較では情報通信および産業機器市場向けのコンデンサや水晶部品などの販売増加や、円安効果があつた一方で、車載市場向け部品の販売減少により横ばいとなりました。

利益は11億円となりました。KAVXグループ新工場の稼働率低迷に伴う原価率の上昇や人件費などの増加の影響により、前年同期比較で大幅に減少しました。

一方、前四半期に計上した一時的な構造改革費用などの影響がなくなったことを主因に、前四半期比較では大幅な増益となりました。



10 ページをご覧ください。最後にソリューションです。

当第1四半期の売上高は2,757億円となりました。主にドキュメントソリューション事業が増収となったことに加え、円安効果もあり、前年同期比較で増収となりました。

一方、前四半期比較では、円安効果はあったものの、ドキュメントソリューション事業およびコミュニケーション事業における季節要因により減収となりました。

利益は200億円となりました。増収に加え円安効果もあり、前年同期比較で増益となりました。

一方、前四半期比較では、ドキュメントソリューション事業およびコミュニケーション事業における季節的な売上減の影響により、減益となりました。

2025年3月期 業績予想 (1)



(単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期 4月公表数字から変更なし	増減金額	増減率
売上高	2,004,221	2,050,000	45,779	2.3%
営業利益	92,923 (4.6%)	110,000 (5.4%)	17,077	18.4%
税引前利益	136,143 (6.8%)	150,000 (7.3%)	13,857	10.2%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	101,074 (5.0%)	112,000 (5.5%)	10,926	10.8%
EPS(円)	71.58	79.51		
平均為替 レート	米ドル 145円 ユーロ 157円	米ドル 145円 ユーロ 155円		

注1: () 内の数字は売上高比率
注2: 2025年3月期予想の基本的EPSは、
第1四半期の期中平均株式数を用いて算出

続いて 2025 年 3 月期業績予想についてご説明いたします。

12 ページをご覧ください。通期の業績予想につきましては、本年 4 月の公表数値から変更はございません。

前期に比べ、増収増益の売上高 2 兆 500 億円、営業利益 1,100 億円、税引前利益 1,500 億円。親会社の所有者に帰属する当期利益 1,120 億円の予想としており、当社の主要市場である半導体関連および情報通信関連市場の本格的な需要回復は下期以降を見込んでおります。

2025年3月期 業績予想 (2)



(単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期 4月公表数字から変更なし	増減金額	増減率
設備投資額	161,684 (8.1%)	200,000 (9.8%)	38,316	23.7%
有形固定資産 減価償却費	111,724 (5.6%)	120,000 (5.9%)	8,276	7.4%
研究開発費	104,290 (5.2%)	120,000 (5.9%)	15,710	15.1%

注：（ ）内の数字は売上高比率

13 ページをご覧ください。設備投資額、減価償却費、研究開発費についても、本年 4 月の公表数値から変更はございません。設備投資につきましては、部品需要の動向を見つつも、機を逃さぬように進めてまいります。

2025年3月期 セグメント別売上高予想



(単位：百万円)

セグメント別 売上高	2024年3月期		2025年3月期 4月公表数字から変更なし		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
コアコンポーネント	569,145	28.4%	580,000	28.3%	10,855	1.9%
産業・車載用部品	224,574	11.2%	232,000	11.3%	7,426	3.3%
半導体関連部品	314,649	15.7%	315,000	15.4%	351	0.1%
その他	29,922	1.5%	33,000	1.6%	3,078	10.3%
電子部品	352,277	17.6%	360,000	17.5%	7,723	2.2%
ソリューション	1,101,625	54.9%	1,131,000	55.2%	29,375	2.7%
機械工具	310,740	15.5%	313,700	15.3%	2,960	1.0%
ドキュメントソリューション	452,162	22.5%	470,000	22.9%	17,838	3.9%
コミュニケーション	224,403	11.2%	231,300	11.3%	6,897	3.1%
その他	114,320	5.7%	116,000	5.7%	1,680	1.5%
その他の事業	17,680	0.9%	16,000	0.8%	-1,680	-9.5%
調整及び消去	-36,506	-1.8%	-37,000	-1.8%	-494	—
売上高	2,004,221	100.0%	2,050,000	100.0%	45,779	2.3%

14

© 2024 KYOCERA Corporation

2025年3月期 セグメント別利益予想



(単位：百万円)

セグメント別 利益	2024年3月期		2025年3月期 4月公表数字から変更なし		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
コアコンポーネント	57,226	10.1%	61,000	10.5%	3,774	6.6%
産業・車載用部品	26,409	11.8%	29,000	12.5%	2,591	9.8%
半導体関連部品	30,375	9.7%	31,000	9.8%	625	2.1%
その他	442	1.5%	1,000	3.0%	558	126.2%
電子部品	6,521	1.9%	30,000	8.3%	23,479	360.1%
ソリューション	69,841	6.3%	86,000	7.6%	16,159	23.1%
機械工具	16,837	5.4%	22,000	7.0%	5,163	30.7%
ドキュメントソリューション	43,940	9.7%	47,000	10.0%	3,060	7.0%
コミュニケーション	6,964	3.1%	10,000	4.3%	3,036	43.6%
その他	2,100	1.8%	7,000	6.0%	4,900	233.3%
その他の事業	-41,049	—	-47,000	—	-5,951	—
事業利益 計	92,539	4.6%	130,000	6.3%	37,461	40.5%
本社部門損益等	43,604	—	20,000	—	-23,604	-54.1%
税引前利益	136,143	6.8%	150,000	7.3%	13,857	10.2%

15

© 2024 KYOCERA Corporation

なお、14 ページ、15 ページに記載のセグメント別業績予想につきましても変更はございません。

以上が私からの説明となります。今後とも、当社に対しましてご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

< 質問者 1 >

[Q]：最初に事業ベースのお話ですが、期初の見立てに対してこの1Qで強かったところ、弱かったところ、また2Qに向けての方向感で、当初思っていたよりも回復が早いところや遅いところについてセグメント別に整理させてください。若干為替で見えにくくなっているところもあると思いますが、体感ベースで当初の見立てに対してどう変わってきているかというところを整理させてください。お願いします。

[A]：まずコアコンポーネントですが、半導体製造装置用の部品につきましては、前期に引き続き増加傾向にあります。これはおそらく、下期以降は今以上に増えていくだろうと予測をしております。

セラミックパッケージは、主にスマートフォン向けの需要が、思ったよりも少し早く回復しているようでございます。それと車載部品においては、日本で作っている車載部品は主に車載カメラが中心ですけれども、車載カメラは想定より少し回復しました。これは、日本の自動車メーカーが比較的好調だったことによるものです。

一方、全然予想通り進捗していないのが有機パッケージで、AI向けは少し動いているみたいですが、それ以外のサーバー用のスイッチ等については、まだ全然動いていません。われわれの見立てでは、下期以降少し回復すると思っていましたが、もう少し時間がかかりそうな感じでございます。

次の電子部品セグメントは、京セラ本体の電子部品はスマートフォン関係の部品が中心ですので、想定より少し早く回復の傾向が見られています。一方、KAVXはメインがヨーロッパの車載向けで、KAVXの売上の5割強はございますので、こちらは全然回復が見られず、かえってこの1Qは減少し、想定から下振れしているような状況でございます。

ソリューションは円安の影響も多分にあったとは思いますが、ドキュメントソリューション事業、機械工具事業等につきましては、想定より少し上振れしました。再生可能エネルギーをやっていますスマートエナジーは、われわれの問題として増産設備を入れるために一旦ラインを止めたことで、少し1Qは落ちましたが、2Q以降に少し挽回できるだろうという見方をしております。以上でございます。

[Q]：なるほど。確認ですが、おそらく今のご説明の中で、スマートフォン用セラミックパッケージや京セラ本体の電子部品の話ですと、やっぱり御社は中国よりも北米スマートフォン向けが多いと思います。比較的そこの取り込みが強いと推測しますが正しいでしょうか。

あと全社ベースで見たときには、1Qはもう少し低いスタートを見ていたと思うので、そこは全社ベースの計画よりはプラスと考えてよろしいでしょうか。

[A]：はい。おっしゃる通りでございます。

[Q]：なるほど、わかりました。あと、大きな二つ目ですが、キャピタルアロケーションの議論については、年初からあまり話が出ておらず、また中間決算頃の秋口に公式発表される予定というのも理解しています。

本日お聞きしたいのは、この3ヶ月から半年で、どういう議論をして、どういう前進があったのか。また、どういう点で、これからさらに検討を重ねていかなければならないのか。今々の進捗状況をシェアしていただければありがたいです。お願いします。

[A]：収益性向上に向けた経営戦略について、主に二つの視点で議論をいたしております。

一つ目は投資の原資として、今はKDDI株式を担保として借入をするということをやっておりますけれども、政策保有株式全般の圧縮を今議論しております。具体的な数字につきましては、おっしゃった通り秋口までお待ち願いますが、いずれにしても減らしていく方向性は間違いないだろうと思います。

もう一つは、アメーバ経営ということで、今まではどちらかというと部門が自分たちの規模に応じた設備投資をしていくスタンスが非常に強かったのですけれども、ここにきて專業メーカーさんがかなりの投資を集中的にやられています。先ほど申し上げましたように有機基板とか、あるいはMLCCとかは、会社として伸ばすのであれば集中的に投資をしないと勝てないという判断のもとに、今までよりもさらに選択と集中をした設備投資をしていくことになろうかと思っております。この二つが大きな議論の中心となっております。

[Q]：なるほど。課題という意味だと、一つ目の資産全体の圧縮や政策保有株式の圧縮に対して、成長のためのメリハリをつけた投資というだけだと、なかなか使い切れない部分もあるのかなと思いますし、いい使い方がすぐには見つからないところもあると思います。この半年の検討ではやっぱり難しいのか、それとも見えてきたところがあるのか、お考えをお聞かせください。

[A]：今、オーガニックの成長にかなり投資をすると話をさせていただきましたが、もちろん M&A についてはずっと議論を続けておりますし、いくつか具体的な話も進めておりますので、M&A でいい案件があったら前倒しでその資金を使うことになると思います。

[Q]：なるほど、わかりました。ありがとうございます。

<質問者 2>

[Q]：ご説明ありがとうございました。2 点ございます。

まず 1 点目が、半導体関連部品についてです。セラミックパッケージが好調で、有機パッケージが厳しいというご説明ですが、有機パッケージに関しては、計画した設備投資を計画通り実施するのでしょうか。事業環境が変化してきている中で、どのように現時点で考えていらっしゃるのか教えてください。

また、セラミックパッケージについては、北米スマートフォン向けの前倒しがあるのではないかと考えるのですが、2Q 以降、季節的に例年通り増えると考えていいのかどうか、ご示唆をお願いします。それが 1 点目でございます。

[A]：まず有機パッケージの投資でございますが、正直に申し上げますと、川内工場に大きな工場を作って、そこに設備を一気に導入するという当初の計画でしたが、今は従来われわれが作っていたものとは違う、AI 関連向けがかなり強くなってきています。そこに対応するためには既存の工場も少し設備を更新しなければいけないということで、川内の新工場に入れる予定であった設備を綾部と川内の既存工場向けにするなど、かなり割り振りを変えました。

ですから、そういう意味で投資内容については、去年計画した部分からかなり変更しているというご理解をお願いいたします。

それと、北米向けのセラミックパッケージの方ですけども、セラミックパッケージはスマートフォン関連が多いため、前倒しと言いますか、元々ちょっと強かったです。2Q 以降については変化の情報はございませんので、通常の年と同じような動きをするだろうと考えております。

[Q]：ありがとうございます。有機パッケージの投資ですが、川内工場の大きな投資というのは、計画と変わっていないのかどうかを教えてください。あと、AI 関連の需要が強いために、綾部と川内の既存工場に新たな設備を入れるということだと思うのですが、これが立ち上がってくる時期と売上・利益に貢献してくる時期についてご説明をお願いします。

[A]：川内工場に投資していた金額を削っているわけではないです。もう新しい建屋は建ちましたので、その建屋に必要な設備に投資する分を綾部と川内の既存工場に振り向けたということです。そういう意味では、川内の新しい工場の立ち上げ時期は多分 2 年ぐらい遅れることになると思います。綾部と川内に今回振り向けた設備が立ち上がり、認定を取得してから生産がスタートするのはおそらく来期になると思います。

[Q]：来期から寄与してくるということですね。

[A]：はい、そうです。

[Q]：ありがとうございます。あと、電子部品についてです。KAVX が厳しい反面、京セラ本体の電子部品については、円安の影響を除いたときに、こういった変化があるのか教えてください。MLCC、水晶、コネクタなど主要製品に分けて、今々の状況、2Q 以降の見通しについてご説明をいただけませんか。

[A]：京セラ本体の電子部品につきましては、スマートフォン向けの部品が非常に多いのですが、MLCC と水晶振動子は少しシェアも回復できたので、去年からするとプラス方向で上がっていくという見立てです。コネクタについては、新規の車載用コネクタ等の受注が取れましたので、コネクタについても収益性、売上ともに回復傾向で推移すると思います。

京セラ本体の電子部品の中で全然うまくいってないのがパワーデバイス関連で、こちらは回復の兆しが全く見えていません。また、SAW フィルタ関係については、去年はちょっと特需があったというのがありますが、今年は去年ほどは良くないだろうと思っております。

KAVX は先ほど申しあげました通り、ヨーロッパの車載向けが全体の半分近くございますので、こちらも今のところ回復しそうな雰囲気は全く見えません。唯一、タンタルコンデンサが SSD に大量に使われるのですが、SSD が AI のデータセンターに向けて少し動きが見られることで、こちらは下期に向けて少し上がるんじゃないだろうかという見立てをしております。

[Q]：はい、どうもありがとうございます。

<質問者 3>

[Q]：ありがとうございます。1点だけでお願いします。

全体の着地の部分で、為替の円安の影響というコメントがありましたが、その部分のインパクトは、全体として売上・利益にどれくらいの影響があったのでしょうか。あとは、中でもソリューションの部分ではどれくらいの影響があったか、為替の売上・利益の影響の規模感を教えてください。以上になります。

[A]：まず売上は、全体で 390 億円ぐらいのプラスになりました。利益はいろんな通貨のやり取りがあるので、正確にはわからないのですが、約 50 億円のプラスじゃないかと見ております。それと、ソリューションだけの売上のインパクトが約 220 億円のプラス、利益で 37 億円ぐらいのプラスになっております。

[Q]：わかりました。ご丁寧にありがとうございます。以上です。

<質問者 4>

[Q]：まず、細かい話ですが、事業のことで二つご質問させてください。

一つは、機械工具事業が売上、利益ともに結構好調で、特に 4Q からの変化でいくと売上も利益も上がってきていますが、この背景を教えてください。それと、その他の事業の開発費が結構増えています、これはどのような開発費なのかについて教えてください。これが 1 点目でございます。

[A]：まず機械工具事業ですが、この中に KIT というリョービさんから継承した電動工具の事業がございます。この中で今、圧倒的に好調なのが空調服でございます。空調服のファンとかを組み立てて、空調服屋さんに独占的に供給しています。1Q は異例に売れて非常に売上高が上がっていますが、季節性の非常に強いもので多分、2Q 以降はその分下がるんだろうと思います。こちらが機械工具事業が前四半期と比べて上がっている一番大きな要因じゃなかろうかと思います。

それと開発費については、通信関連でコンシューマ向けスマートフォンをやめる一方、今、5G の基地局絡みの開発と一緒に立ち上げており、これで 40 億円ぐらい余分に従来から積み増して開発をやっています。

5G の基地局自体のほか、基地局の台数を減らすためにリピーターというものもやっております、この二つが大きな開発案件となっております。

[Q]：それは将来的には、コミュニケーション事業のサブセグメントに入っていくような趣旨のものなのか、新規事業なのかということと言うと、どういう位置づけになりますか。

[A]：コミュニケーション事業に入ります。

[Q]：なるほど、先行開発をしているので、切り分けてこちらでやっていらっしゃるということですね。

[A]：はい、そうです。

[Q]：ありがとうございます。あと2点目が、先ほどのご質問の中で、政策保有株式を少し売却する方向になるだろうというお話があったかと思います。それはKDDIさんも含めた方向性としては考えていいのか、それともKDDIさんはそれとは別の考え方をされるのか、可能な範囲で教えていただけないでしょうか。

[A]：まだ、正式に決めたわけじゃないですが、KDDI株を特別視した考え方は、今はしておりません。

[Q]：なるほど。わかりました。まさにこの路側機とか基地局など、一緒にできる事業なんかも結構おありになられるなとも思うんですけども、KDDI株はいわゆる事業資産として考えられるのではなくて、金融資産として考えるというような考え方をお取りになられるんですかね。

[A]：どこまでどう減らすかはまだ決めておりませんが、今までみたいに一切手をつけません、というつもりもないということでございます。

[Q]：わかりました。すみません、ありがとうございます。

<質問者5>

[Q]：本日はご説明ありがとうございます。

まず1点目は有機パッケージに関して、先ほど川内の投資の中身を変えていくといったお話がございましたが、具体的にどういった投資の中身なのか、AI向けにとおっしゃったんですが、どういったような中身になってくるのかということをお教えください。

また、これによって例えば御社の生産キャパシティは昨年度末から比べて今年度はどの程度変わるのか、それから来年度に向けてどんな変化になってくると考えればよろしいでしょうか。

[A]：有機パッケージは、メッキとエッチングを繰り返してビルドアップしていくのが一番重要な工程なのですが、その設備をより細かい配線に対応できるように入れ替えるというようなことをやります。結果、どうなるのかというと、古い世代の製品の生産容量が減る一方、新しい製品の生産容量は増え、基板面積でみるとトータルのアウトプットはあまり変わらないと思っております。

生産量を増やすには、今、川内に新工場が建ちましたので、そちらへ新たに設備を入れていくことが必要になると思います。市場の状況を見ながら、川内の新しい工場へ入れる設備については考えていきたいと思っております。

[Q]：ありがとうございます。投資の額自体は変わらないという理解でよろしいですか。

[A]：トータルでは変わりませんが、状況を見ながらやります。ですので、前期はもちろん減りましたが、今期が予定通りかどうかは、様子を見ながら進めていきたいと思っています。

[Q]：ありがとうございます。もう1点、KDDI株式の取り扱いについて、特別視しないといったお話でしたが、成長投資に使っていくというのが主な目的と理解をしています。従前の社長様のコメント等でも、何か投資する先、あるいはM&Aの先を決めてからご売却するといった順序でおっしゃっていたと思います。

その順序というのは、売却するためには、やはり案件があるというのが条件になると考えてよろしいでしょうか。それとも、そういった具体的な案件がなくてもあらかじめ売却する可能性もあるのでしょうか。

[A]：オーガニック成長に向けた投資は、われわれが計画を立ててやりますので、この部分に充てるための分については粛々と進めていくことになると思います。

相手があるM&Aについては、いい案件があったときに処分することになると思います。オーガニック成長に充てる分については秋口に発表できると思いますけれども、M&Aについては適宜実施するというような言い方になるのではないかなと思っております。

[Q]：ありがとうございます。最後は数字の確認です。先ほど全社ベースで1Qは計画上振れというご説明がございましたが、為替の影響を除いたベースでも上振れという理解でよろしいでしょうか。

[A]：はい、結構です。

[Q]：それは、ソリューションが強かったという理解でしょうか。

[A]：そうですね。部品のほうは良かったり悪かったりですけど、ソリューションはおおむね全体的に良かったです。

[Q]：はい、ありがとうございました。

以上

注記

当資料は、SCRIPTS Asia 株式会社によって録音・書き起こしされたものを当社にて一部編集したものです。

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2025年3月期第1四半期決算説明会開催日（2024年8月1日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください（<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>）。